

## 職員による自己評価

## A環境面

・事業所の広さに応じたプログラム内容を実施し、職員の立ち位置や身体の向きを工夫している。

## B児童への支援内容

・月ごとのに内容やテーマを変えて抑揚をつけた支援を心掛けている。

## C関係機関との連携

・時間を設けて連携は取れていないが、送迎時に各所とのコミュニケーションを図っている。

## D保護者への説明責任・信頼関係

・日々の活動や連絡は帰宅時に対応しているが内容によってはすぐに電話などで共有しなければならない。

## E非常対応

マニュアル等はあるものの保護者への共有ができていない。

## 保護者による評価

## A環境面

・狭い

## B児童への支援内容

・日々のプログラムには概ね満足  
・成果が見てとれるイベント等の開催希望。

## C事業所からの情報発信

日々の状況共有はできている。

## D非常対応

内容など把握できていない。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- ・プログラム内容や支援の手段については相違無し。
- ・職員が捉えている個々の課題や導き方についても保護者との相違は少ない傾向にある。
- ・問題点や改善点についても一致している。

## 【相違点】

- ・活動を実際に見なければわからない点については伝えきれていない。
- ・説明不足による相違がみられる。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・求められている支援は概ねできている。
- ・療育活動を通して規律や協調性、コミュニケーション能力の向上にむけたプログラム提供。

### 事業所の改善点

- ・保護者会、地域活動、非常時対応が乏しい。
- ・年間スケジュールの組み立てが詳細ではない。
- ・事業所から保護者への案内方法が少ない。

### 事業所の改善への取り組み

- ・保護者や児童のニーズの把握および、そのニーズに合わせた支援を行なう。
- ・保護者の方々が見られるプログラム(イベント開催・参観日)を実施する。
- ・学校の年間スケジュールと連動した活動計画を作成し、提供する。
- ・個々の目的や目標を形にする(児童の目線に立った目標設定)

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・支援方法を納得の上、契約ならびに通所開始していただいたので、相違点は少なかった。
- ・問題も職員と保護者間で一致しているので改善に努めていく。
- ・開所2年目となるので、プログラムの工夫や保護者への丁寧な対応に尽力していく。

事業所名 LEIF 横浜南

担当者 宮城 圭